

碇葉奈 個展

あれどもあらざるある

2026年2月7日(土)―3月29日(日)

午前10時―午後6時

火曜日休館

入場無料



碇葉奈
幽に夢見る | 2022

古来日本の幽霊はこの世への情念を映し出す存在であり、怪談が創造され、形象を与えられてきました。尼崎ゆかりの近松門左衛門は人形浄瑠璃に怪談を生かし、人間の情念を巧みに描写します。幽霊が描かれてきた歴史には、目に見えない存在に託した人々の思いがありました。本展で紹介する碇葉奈は、現代における幽霊の表現を探索しています。日本画材、とくに白色顔料と透過素材を用いた表装の研究、そして自己への理解を深める



すがる | 2024

関連資料展示

Room1にて日本画をより知ることのできる、絵具他の材料および模写作品をご覧いただけます。

トークイベント

3月14日(土) 午後2時—3時半

松平莉奈氏(画家)をゲストに迎え、出展作家と「日本画における古典の意義」について話をします。

場所 | A-LAB 定員 | 先着20名

申込 | メールにて (amalove.a.lab@gmail.com)

※イベント名、氏名、電話番号、人数を明記してください。

住所 尼崎市西長洲町2-33-1

※会場に一般用駐車場はありません

問い合わせ先

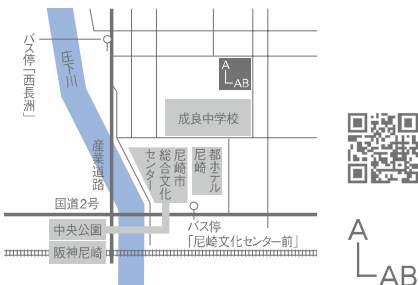
A-LAB TEL / FAX 06-7163-7108

尼崎市文化振興課

TEL 06-6489-6385 FAX 06-6489-6702

ama-a-lab.com

Facebook @amalove.a.lab Instagram @alab_amalove



出展作家 | 碓葉奈 IKARI Kanna



Photo:コムラマイ

私は現在、現世と常世の融合を研究・制作のテーマに、幽霊を始めとしたあわいに漂う“見えるけれど、見えない存在”の表現を探索しています。「あわい」とは、境界のあいだに生まれる曖昧で移ろう状態を指します。透過素材や反射素材、寒天引きによって生まれる虹色の輝きといった現象を用い、あわいに漂うものたちの“そこにいるようでいない、いないようでそこにいる”という曖昧な存在感を描き出したいと考えています。幽霊画の系譜を継ぎながら、現象と描写によって表現することで、見えぬものがふと立ち上がる瞬間を探り続けています。2000年静岡県生まれ。2024年、第9回トリエンナーレ豊橋星野真吾賞展入選、第34期公益財団法人佐藤国際文化育英財団奨学生。2025年、第9期公益財団法人クマ財団クリエイター奨学金奨学生、個展「あわいがふれる」(KUNST ARZT/京都)。現在、京都芸術大学大学院芸術研究科博士課程に在学中。



幽に夢見る | 2022

ことで描く対象を顕らかにしてゆく試みです。日本画を継承し、古典の世界に詰め込まれた人々の営みを今に生かせるかは、私たち次第かもしれません。本展が私たちにとって見えていないもの、見ようとしてこなかったものを顧みる機会になることを願います。